

令和 2 年 2 月定例会 2 月 28 日

◆ 19 番（岡野長寿） （登壇）皆さんおはようございます。日本共産党の岡野長寿でございます。

（略）

統合問題、学校配置計画について伺います。

土堂、長江、久保、3 小統合問題については、市民から強い異論が提起され、特に土堂小学校育友会や地域からは学校存続を求める強い要望書が提出され、市教委は一定の方針変更の説明を行いました。そこで、この方針の変更がいかなるものか伺いたいと思います。

転校しなくても済むようにということで、学校ごとに仮設校舎を建てる、8 億円の債務負担行為が上っています。しかし、学校を存続させてほしいという要望は、どうなっているか明らかではありません。例えば土堂小学校について言えば、仮設校舎ができるのだから現校舎の耐震工事が可能になります。市民の要望に沿って現校舎の耐震工事を行えば、仮設校舎に移って 1 年後、長くても 2 年後には現在地での学校運営が可能となり、仮設校舎リース期間も短縮され、費用も節約されるはずですが、市教委の構想にはそういう選択肢はありませんか、またそうすべきではありませんか。

◎教育長（佐藤昌弘） （登壇）皆さんおはようございます。

日本共産党議員団を代表されました岡野長寿議員からの御質問にお答えさせていただきます。

（略）

次に、学校の配置についてでございますが、教育委員会といたしましては、子供たちの安全・安心はもとより、適正な学校規模の確保を基本としており、3 小学校につきましても同様に考えております。そうした中、学校を存続させてほしいという御要望をお持ちの方がいらっしゃるということにつきましては、十分認識しております。

次に、土堂小学校の現地での耐震化についてでございますが、土堂小学校の現校舎につきましては、コンクリートの中性化が進み、耐震工事を行っても建物の寿命は延びないこと、また背後地が土砂災害特別警戒区域に指定されていること、今後は児童数の減少が見込まれることから、教育環境の確保について懸念がございます。こうしたことも含めまして、市内中心部の学校のあり方につきましては、検討して改めて御提案したいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

◆ 19 番（岡野長寿） 経過説明はありましたが、反省はないということですね。土堂小学校の問題を中心に聞きたいと思うんですけども、これもあなた方は最初議員に説明するときには、保護者、児童の要望には沿えないが、沿えないがというね、児童の安全のため苦渋の決断をしたとして、3 小、久保へ新しい小学校を統合するよということをやったんですわね。それが、反対を受けて結局迷走してしまっているわけですね。このことに対する反省っていうのはないんですか。

◎教育総務部長（松尾寛） 3 小学校の耐震化につきましては、当初それぞれの学校でということで御説明をさせていただきました。これにつきましては、先ほどの答弁の中で教育委員会の学校配置の考え方を説明させていただきましたが、子供たちの安全・安心はもとより、適正な学校規模の確保を基本としてということで説明させていただきましたが、そのことの中でより安全の確保ということをまず考えるということで、それぞれの学校での対応ということを模索してまいりましたが、土堂小学校については、現地での耐震化、いながらの耐震化というのが非常に厳しい状況であるということがございまして、それでは次の考え方として、より早く安全を確保できる方策としてはどうなのかということで、中学校を巻き込まないという前提のもとで久保小学校のほうへ 3 小学校を統合ということで御提案させていただきました。そういったところでございますが、その説明の中

でさまざまな御意見をお聞きし、やはりいきなりほかの学校へ転校をして、その生徒・児童になるということではなかなか受け入れていただけないということですので、今回仮校舎ということで御提案をさせていただいたものでございます。

◆19番（岡野長寿） これも経過説明だけで、反省がないと。最初は、苦渋の決断の理由として、土砂災害危険区域があるからということをおっしゃってましたよね。もうそれでやむなしと言っていたのに、結局ほかの学校も随分危険区域があるじゃないかと。危険区域というのは逃げなさいということです、基本的には、という議論がされて、結局あなた方が統合やむなしといった論理は破綻したわけですよ。間違いだったなという気はありませんか。しかも、今まで一中学校、一小学校、一認定こども園という枠を飛び越えての3小統合案でしょ。やはり相当の理屈がないとできないはずなのに、理由にならない理由を持ち出して進めたことに対して、まず反省があつて進めないといけないということは申しておきます。その上で、あなた方が、2度の転校がもうとても大変だという保護者の指摘を受けて、出してきたのが5年間の仮設校舎計画ですが、これは5年で済むんでしょうか。というのは、当面これ転校はしなくて済むことになるんですよ。ただ、保護者は、その仮設校舎に移って、それから、じゃあ、あなた方はまだ今は白紙の中学校も含めた統合案というのを考えていらっしゃるんでしょうが、まだ発表はできないが、これが保護者や児童や地域の理解を得るために、この仮設校舎の期間の5年間で、まだ発表もしてないんですよ、まあいつ発表するか知りませんが、例えば仮設校舎1年目、2年目あたりに構想を出したとしても、それから仮設校舎の5年間の期間に、残り3年ぐらいの期間に、土堂を初めとした方々に、ああ、そうですかと、それがいいねということと言える自信がありますか。

◎学校教育部長（杉原妙子） さまざまな御議論をいただく中で、このたび子供たちの安全確保を最優先にということで決定させていただいた結論でございます。今後の方向性につきましては、答弁の繰り返しになりますけれども、いろんな内容について十分に検討をして、できるだけ早い段階で御説明できるよう努力していきたいと考えております。

◆19番（岡野長寿） いろいろ意見を聞いて出した結論というのは、あくまでも暫定的な結論ですよ。ですから、どうなるかわからない、5年で済むかどうかはわからない。私は、例えば土堂小学校の子供たちの仮設校舎を千光寺公園内につくるということで、通学の問題とかいろいろあるんですけど、それはそれとして、また迷走を始めるなという気がしています。問題は、やはり子供、児童、保護者、地域の真意を酌み取って、それに従ってやっていくのが民主主義でしょ。どこかの権力者の意思をそんたくするんじゃなくて、やはり民意をそんたくして進めていってほしいんですよ。先ほど土堂で耐震工事ができない、いながらの耐震工事はできないんですが、仮設校舎に移ったらいながらじゃありませんから、できるでしょ、あなたたちそういう調査もしてるじゃないですか。要は、単独ではもう残したくない、統合したいというだけの話じゃないんですか。

◎教育総務部長（松尾寛） 土堂小学校の現在の場所につきましては、答弁でも申し上げさせていただいたとおり、学校の環境として懸念があるというふうな認識は持っております。そうした中で、このエリアの中で、どういう中心部の学校のあり方が提示できるのかということについて十分検証、検討して、再度提案したいということをお説明をさせていただいたところでございます。

以上でございます。

◆19番（岡野長寿） 2番目の項目に移りますけども、土堂小については、耐震工事を行って現地での存続をと、もうこれが解決の法則だということを言っておきます。そうしないと、迷走を10年単位で続けることになると思いますよ。

◆ 17 番（前田孝人） （登壇） 皆さんこんにちは。尾道未来クラブの前田孝人です。

早速ですが、総体質問を行います。

（略）

次は、旧市街地の久保、長江、土堂小学校の統合問題であります。

余りにも唐突に、余りにも粗雑で、余りにも強引に推し進めようとしてきた旧市街地の 3 小学校の統合、令和 3 年 3 月に廃校とし、令和 5 年 4 月に久保小敷地に統合し、新設するとしたことを、佐藤教育長はわずか 3 カ月で撤回しました。3 校は、令和 3 年から 4 年間、それぞれの仮設校舎で存続することとなりました。当初、教育長は、子供の安心・安全のため苦渋の選択をした、東日本大震災で大川小学校の津波訴訟の住民勝訴等もあり、提案は保護者の期待に応え切れていないが、今後丁寧に説明していくと述べておられました。しかし、保護者等への説明会の中で 3 校とも転校については大多数が反対して拒否反応を示す。長江、土堂では統合自体に反対の意見が多く、現在地での存続を主張する。こうした反対が強い説明会での意見を踏まえて、撤回し、仮設校舎を建設することとしたものです。再編の枠組みなどは、中学校を含めて検討をし直し、再提案するとしておりますが、今後の方向性も示せないままであります。ただ、統廃合の方針自体は変えないということでもあります。

しかし、これだけ当該小学校の児童や保護者、また地域住民や学校関係者等に大きな波紋を広げ、不安と動揺を与えた上に、発表からわずか 3 カ月でこれを撤回するという大失態を演じてしまいました。お粗末と言わざるを得ません。教育委員会はどれほどの覚悟といたしますか、確固たる信念を持って、尾道の未来を担う子供たちの安全・安心な教育環境の充実を図るべくこの統廃合に取り組んできたのでしょうか。教育委員会の責任は重いものがあります。教育長はこの点をどう受けとめておられますか。

2 月 4 日の教育委員会による議員説明会、3 小の保護者や地域住民との話し合いを踏まえて、久保小への統合を撤回、3 小それぞれへ仮設校舎を建設するという大幅な方向転換を発表しました。このため、新年度予算に 3 小学校の仮設校舎借り上げのため 8 億円を債務負担行為として計上しました。しかし、再編の枠組みなどは中学校を含めて検討をし直し、再提案するとしているものの、今後の方向性も示せないままであります。方向性も示さない中で、たちまち子供の安全を守ることを優先したとして、4 年間で 8 億円もかけて 3 小学校全てに仮設校舎を建てるということです。しかし、今後の 3 小の統廃合問題は、長江、久保の 2 中学校を含めた市中心部の小・中学校の方向性を早急に結論づけなければなりません。小中一貫校や義務教育学校の話も出てくることでしょう。まずは、方向性を出すことが先決だと思っています。改めて説明会資料の図面を見ましたが、久保小は、敷地東側の一部が警戒区域指定の見込みであり、影響は少ないとしています。そうであるなら、あえて久保中へ仮設校舎を建てなくても、警戒区域指定見込みの敷地にある東側の校舎を避けて、北側といいますか、西側の校舎の耐震補強を行い、活用するとすればよいと思っております。もちろん、文化財的価値のある久保小学校の校舎なので、十分に補強をしなければなりません。児童数も 120 名ほど、6 学年 6 クラスですので、何とか間に合うものと思っています。また、長江小学校は、敷地東側が特別警戒区域指定の見込みで影響は大きいとして、長江中へ仮設の校舎を建設するとしています。私は、後ほど話しますが、土堂小学校と合わせて市役所旧本庁舎、これを仮設校舎として活用してはどうかと考えていました。しかし、2 月 17 日に開かれた長江小学校の保護者説明会で、長江中への仮設がおおむね了承された模様であります。残る土堂小学校も、今後の保護者説明会でどのような判断をなされるかわかりかねますが、土堂小は、敷地の一部と後背地が特別警戒区域に指定されており、影響は大であるとしています。ただ、東側の校舎はその区域には入っていないと思いますが、教育委員会の言う危険度はどうなのでしょう。いや、危険度は低いという意見もあります。ところが、保護者説明会での一部の保護者が一つの案として上げた千光寺グラウンドへの仮設校舎がひとり歩きしているとも聞きますが、ここに来て、山の上への低学年の通学や野犬対策などの課題が新たに生じてきました。

ところで、私は、大金を使わなくても済むであろう、土堂小の仮設校舎を提案したいと思っています。それは、



今まさに8月までに解体され、駐車場として整備予定の尾道市役所旧本庁舎を活用してはどうかというものです。旧本庁舎南駐車場、久保駐車場と合わせると、敷地面積は約5,000平方メートル、現在の土堂小学校の敷地面積5,508平方メートルよりも若干狭くなりますが、5階建ての旧本庁舎の上層、5階、4階、3階を減階といいますか、階を減らすというふうに解体をし2階建てとして、必要ならば耐震補強を施すこととします。その上で、土堂小学校の仮設校舎とするものであります。尾道水道に開けた仮設の小学校として土堂の学区区からも通学できる距離であります。また、商店街が通学路となり、にぎわいも継続できると思っています。問題の階を減らす減階というか、解体も現在、今まさに進めようとしている旧本庁舎の解体費用の中でできることであります。このことについて、教育長の見解を求めるものであります。

この統廃合の背景には、子供たちの安全があるということ、またその緊急性については理解をしているところです。しかし、私は、3校を統合し新設する場所や、開校までの通学路への転校や仮設校舎の建設場所ばかりに議論や関心が集中しており、本来の教育という観点が全く論議されていないという点を危惧しているものです。3校統合による目指す学校像については、令和元年11月5日の議員説明会で、尾道の未来を牽引する人材を尾道の真ん中で育てようとして、A4用紙1枚の簡単なペーパーを出しただけで、具体的な説明はないと言っても過言ではありません。児童実態についても、同様であります。

ところで、久保小は尾道町最初の小学校として開校され、150年近くにわたり尾道の人材を育ててきた学校であります。その後、土堂小、長江小と設立され、それぞれが地域住民の求めるところの教育を行い、人材を輩出してきたものであります。近年においては、さくらプラン、みらいプランと尾道教育の活性化に向けて、教育委員会や尾道市は多大な費用と努力を払い、全国的にも高い評価を受けてきました。私の受けとめとして、土堂小では、校長公募で陰山先生を招聘し、百ます計算など徹底した反復練習で先進的な教育を推進してきました。長江小では、多くの大学等と連携した教育を実践し、また久保小は、児童の指導等において多くの成果を上げてきたと思っております。こうしたすぐれた3校の教育の実態や実績が新設の学校でどのように受け継がれていくのか、どのような教育を行おうとするのが重要なポイントではないのでしょうか。今までに莫大な予算をつぎ込み、また多大な労力をかけてきた教育は無駄にならないのか。土堂小学校、長江小学校は全国的なブランドとなっています。このブランドを手放すことになるのではと大変気になるところであります。3小学校を統合し新設校を建てること以上の課題がここにあるとは思っております。かつて筒湯小学校には独自のカラーがあったのですが、久保小との統合により消えてしまっただけで本当に残念だという話を知人からよく聞かされたものです。これまでのそれぞれの学校が持っている教育的財産をどうするのか、また新しい学校の求めていく教育とはどのようなものなのか。統廃合の方針自体は変えない、あくまでも統合を目指すとする教育長の答弁を求めます。

(略)

以上で私の総体質問を終わります。ありがとうございました。

◎教育長（佐藤昌弘） （登壇）教育委員会にかかわる御質問には、私からお答えさせていただきます。

耐震化に係る方針の見直しについてでございますが、当初11月にお示しした案も、このたび見直しを行った案も、児童の安全・安心をいち早く確保することを目的としている点については、変わるものではございません。ただ、その手法につきまして、保護者や地域の皆様の御意見や御要望を踏まえ、転校から仮校舎への移転など、見直しを行ったものでございます。

次に、市役所旧庁舎の活用についてでございますが、困難なものと認識しております。

次に、新しい学校が求める教育についてでございますが、尾道旧市内の3小学校はどの学校も長い歴史の中で質の高い教育実践を重ねており、市内はもとより県内、県外からも高く評価されてきた学校でございます。私としても、これらのすばらしい学校を残していきたいという思いを強く持って取り組んでまいりました。しかし、それぞれの学校の耐震性に課題があること、学校によっては、土砂災害警戒区域等が含まれており、新たに公の施設を建設することは回避すべきと考えられること、今後、エリアの児童数の減少が見込まれることから、それ

それぞれの学校をそのまま存続させることは、旧市内の将来の姿を見越しても適切ではないと判断しております。

また、久保小学校、長江小学校はそれぞれ中学校へ仮校舎により一時的に移転することから、今後は中学校も含めた学校のあり方を考える必要がございます。市内中心部の学校の将来のあり方については、保護者や地域の意見も踏まえながら、改めて提案をさせていただきます。

新しい学校では、尾道の歴史や風土、文化を大切にしながら、情報化やグローバル化がますます進むSociety 5.0の時代をたくましく生き抜いていけるよう、確かな言語力や思考力、表現力、豊かな感性や探求心、健康な体や基礎体力などを育む教育を進めてまいります。

以上、答弁とさせていただきます。